

富山市教育委員会 10月定例会 資料

令和2年度 第1回富山市通学区域審議会の審議状況等について

[教育総務課]

令和2年度第1回富山市通学区域審議会 議事概要

開催日：令和2年10月12日（月）

開催時間：13時30分～15時25分

開催場所：富山市役所8階大会議室

1. 開会2. 会長選出

富山市通学区域審議会条例第4条第1項に基づく本審議会委員15名の互選により、富山大学副学長中村和之委員が会長に選出された。

3. 副会長選出

富山市通学区域審議会条例第4条第1項に基づく本審議会委員15名の互選により、富山商工会議所副会頭品川祐一郎委員が副会長に選出された。

4. 諮問

中村会長に、宮口克志教育長から諮問書を手交した。（「富山市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本的な考え方」）

5. 審議

I. 望ましい学校規模（学級数・学級人数）

～ポイント～

■学級数は多すぎても少なすぎても課題がある。また、質の高い教育を保障するため、1学年2学級以上は確保していく必要がある。

■教員の面からみても、複数学級であることは、教材研究や授業の質を高める上でも意義がある。

■40人学級にこだわらず、低学年と高学年で学級人数に差を設けるなど新たな学びを研究していくことがよいのではないか。

1. 学級数について

- まずはどうやって質の高い教育を担保するかを考えていくべきで、小学校の複式学級はなるべく早く解消してあげる必要がある。
- 子どもたちには、学習発表会などの場で、クラスの枠を取り払って、様々な人間関係の中で、協力して取り組む体験をさせてあげたい。

また、教員の立場から考えると、学年が複数の学級で構成されていれば、教材研究や他の授業を見て、教員同士学びあうことができる。

- 中学校の場合、1学年に3~5学級あれば1人の教科担任がその学年だけを見ることができるが、それより少ない場合は複数の学年を見ることとなり、負担が増える。適正な学級数があった方が、現場の教員はありがたい。
小規模校では教科によって、専門の免許を持っていない先生が教えるという、免許外指導が発生することがある。
- 市町村合併により、平野部・中山間地域・豪雪地帯など様々な地域がある。全市一律の基準とするのはいかなものか。市民アンケートでは、現在の学校配置が望ましいと回答した比率の高い地域もある。
- 再編を考える前に、今ある学級を分割して、複数学級にすることで学級の人数を減らし、先生のストレスを解消して、子どもたちによりよい授業を受けさせてあげること考える必要があるのではないか。

2. 学級人数について

- 学校によって、人生の選択肢が少なくなったり、閉ざされることがあったりしてはいけない。体力づくり、仲間づくり、部活動、生徒会、コンピューターを活用した学習などで、教育を受ける機会が奪われてはいけない。
- 今の子どもたちは、多様な人間関係の中では自己表現ができない、ストレスを感じるという子どもが多く、適正配置を行う上で、どのように目が行き届くような教育環境を保障するか考えていく必要がある。複数学級は必要だが、そのような目が行き届く範囲の学級人数であることが必要ではないか。
- 学年1学級のなかには、1学級10人以下もあれば、40人近くの学級もある。大規模校は少人数指導もできるが、小規模校は少人数指導しかできない。大規模校の課題は工夫することで解決することが可能なことも多いが、人数が少ない場合はなかなか解決できない。小規模校は解消したほうが良いと思う。
- 法令どおりではなく、新たな学びについて検討する中で発達年齢という考え方を取り入れ、小学校低学年と高学年とでは、多少、学級人数に差があってもよいのではないか。
- 40人学級では、コロナ禍において3密対策で苦勞していると聞く。30人学級を前提とした再編もやむを得ないのではないか。
- 40人学級にこだわらなくてもよいのではないか。学級人数を減らして学級数を増やし、これ以上学級数が増やせないときに初めて学校を統合することがよいのではないか。

Ⅱ. 望ましい通学距離と通学時間

～ポイント～

- 通学時間は小学校区では 30～40 分以内がひとつの目安ではないかと思う。また、中学校区は小学校区がまとまっているので、大体見えてくるのではないか。
- 時間だけではなく、どの通学方法を選択するか考えていく必要がある。
- 通学距離・時間を短縮するため、地域をまたいだ通学区域の見直しを行ってはどうか。

- 小学校においては、徒歩で通学できる範囲が望ましいと考える。地域の方に挨拶などを行うことで、地域の中で子どもを育てることができる。小学校高学年で 30 分かかる場合、低学年では 45 分くらいかかっていると思うが、これが 1 時間となると、やっぱり遠いと感じる。通学路の安全や不審者対策を考慮すると、広域化するようであれば、スクールバスを検討していただきたい。
- 気象条件や地理的な条件があるため、一律に定めるのは難しいが、スクールバスであっても、30 分以内が苦痛なく通学できる時間なのではないか。
- 国の基準は特に小学生には厳しいと思う。30～40 分程度が限度ではないか。中学校は部活動が終わる時間に合わせてスクールバスを運行することが難しいため、できるだけ自転車で通える時間や距離がよいのではないか。
- 30 分以内とアンケートで回答している市民が 8 割いる。1 時間以内を提示するときはそれなりの説明が必要だと思うので、30～40 分の範囲で考えたほうがよいと思う。
- 20～30 分歩くということは子どもたちの体力づくりに役立っていると感じている。バス停まで歩くとか、学校の手前で降ろすということも必要ではないか。
- 保護者の肌感覚は 30 分以内である。一方、高学年になると、「体力がついていいよ」とプラスの方向に変わる。低学年だけにスクールバスを出すなど柔軟な対応があればよい。
- 通学に地域の関わりがあるかどうかで、通学時間が長く感じるか、安心安全に通学できるかが変わると思う。統廃合が進んだ時に、地域の知恵によって解決している地域もある。小・中学校は地域なくしては考えられないため、地域における学校の立ち位置をはっきりしてあげればよいのではないか。
- 地図上では近い学校があるのに、地域ブロックの関係で遠方の学校に通っているケースもある。これを機会に、統廃合を含めて、通学区域を見直すことも必要ではないか。

Ⅲ. その他のご意見

- 学校を有料で貸し出したりし、もっと利益を上げるような運用方法を考えてみてはどうか。
- すべての子どもが、文部科学省が求める教育を受けられるよう、また、今後、予算がなくて学校備品等の修繕ができないようなことが起こらないよう、コスト面からも考えていく必要があるのではないか。
- 多様な人間関係が影響するのは高学年からであり、低学年ではまだ早いと思う。

学習環境に関するアンケート調査結果

子どもたち・教職員が理想と考える学級あたりの人数、学級数について、アンケートを行いました。

1. 対象者 小学校6年生 1,663人(各学校の任意の1学級) 中学校3年生 850人(各学校の任意の1学級) 小学校教職員 1,468人(県費負担教職員) 中学校教職員 789人(県費負担教職員)	2. 回答者 小学校6年生 1,634人(回答率 98.3%) 中学校3年生 808人(回答率 95.1%) 小学校教職員 1,400人(回答率 95.4%) 中学校教職員 744人(回答率 94.3%)	3. 実施日 令和2年10月5日～8日 4. 回答方法 アンケート用紙を配布し、各学校で集計の上、FAXにて教育委員会へ回答
---	---	---

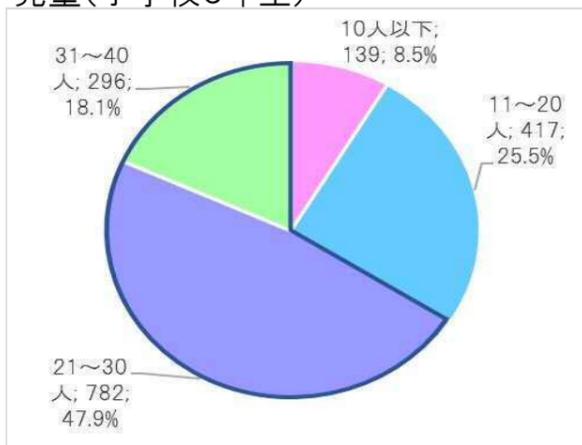
小学校

問1 あなたは、1学級に何人いると、楽しく学習したり生活したりすることができると思いますか。(小学生)
あなたが理想と思う、1学級当たりの児童数は何人ですか。(教職員)

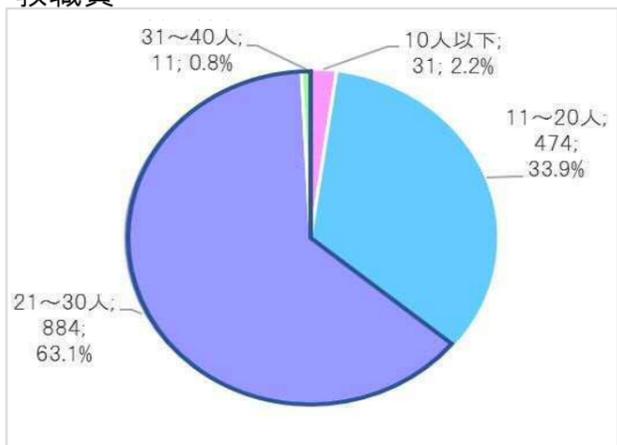
問2 あなたは、1学年に何学級あると、楽しく学習したり生活したりすることができると思いますか。(小学生)
あなたが理想と思う、1学年当たりの学級数はいくつですか。(教職員)

1. 全集計

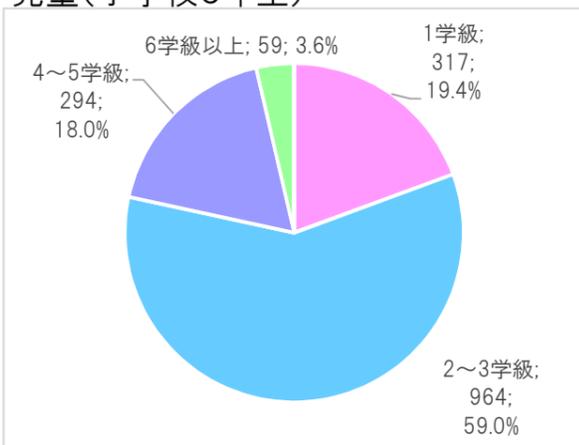
児童(小学校6年生)



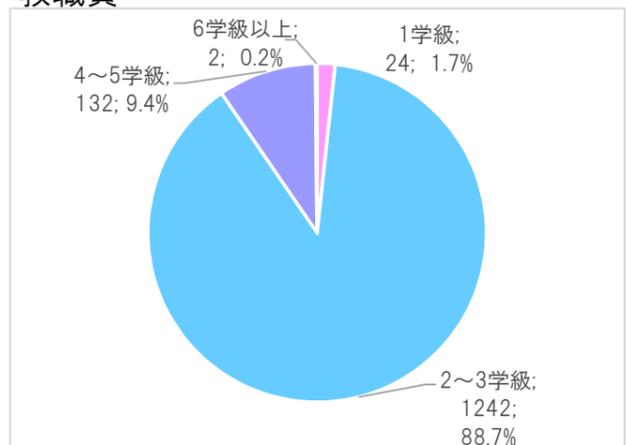
教職員



児童(小学校6年生)

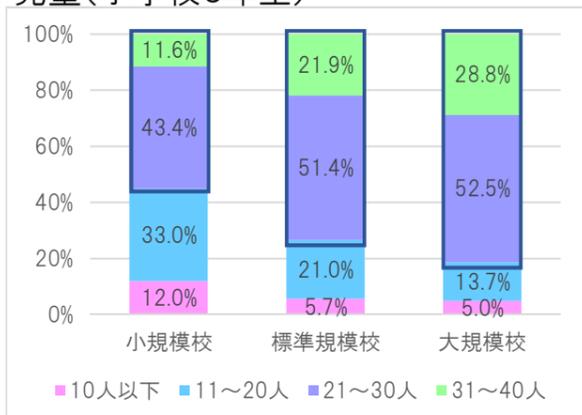


教職員

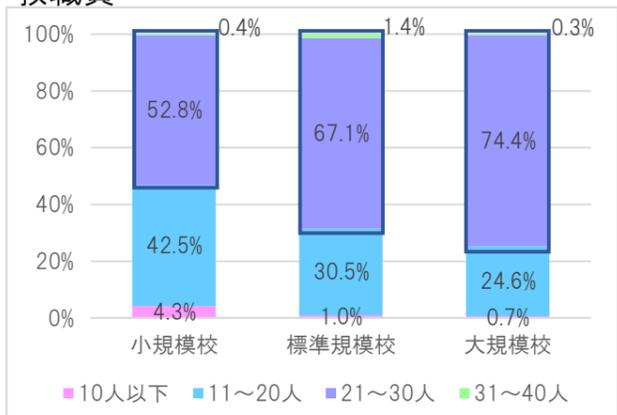


2. 学校規模別

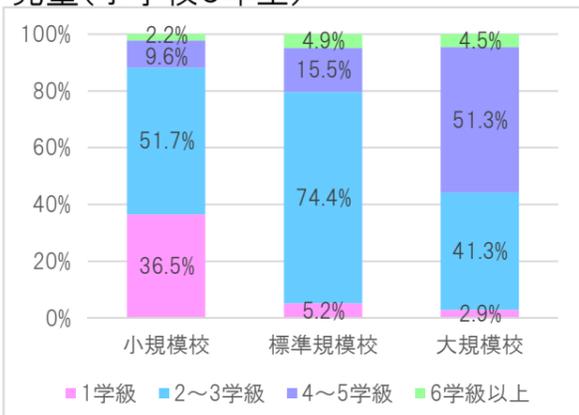
児童(小学校6年生)



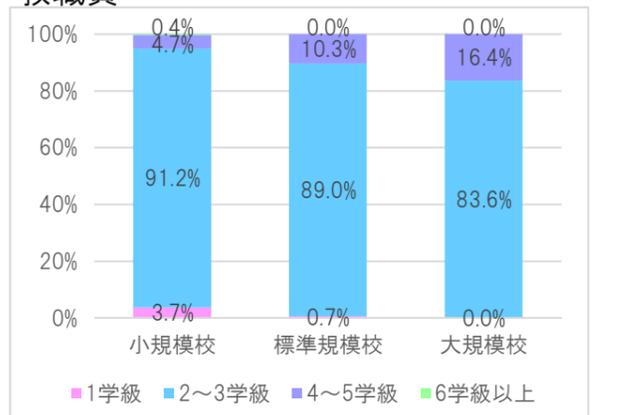
教職員



児童(小学校6年生)



教職員

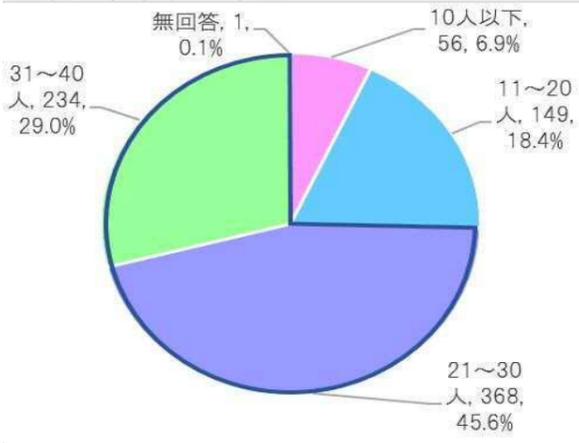


中学校

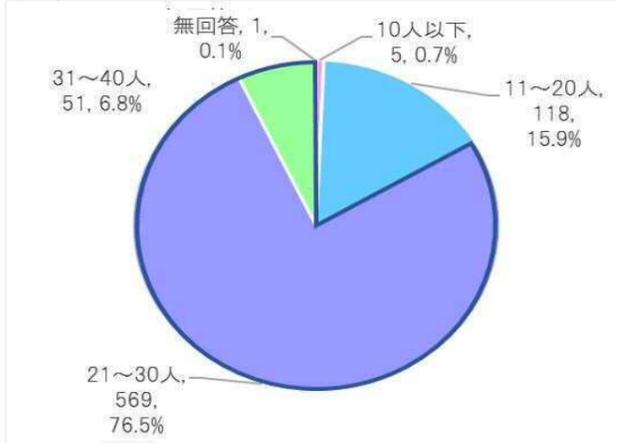
問1 あなたは、1学級に何人いると、楽しく学習したり生活したりすることができますか。(中学生)
あなたが理想と思う、1学級当たりの生徒数は何人ですか。(教職員)

1. 全集計

生徒(中学校3年生)

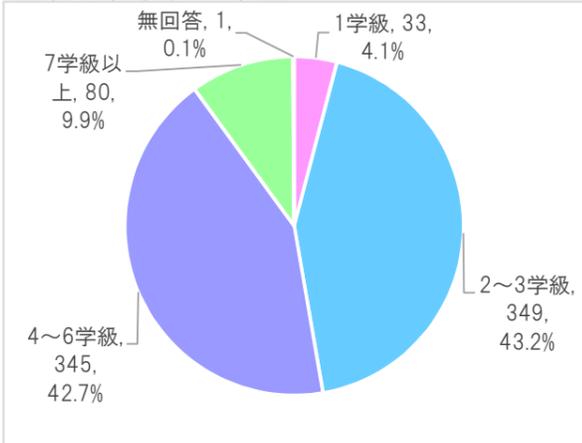


教職員

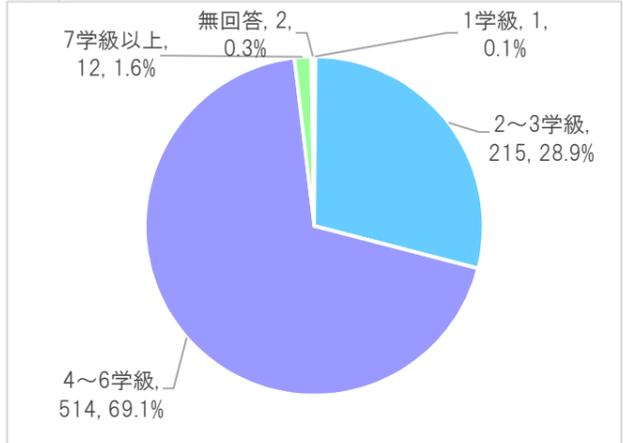


問2 あなたは、1学年に何学級あると、楽しく学習したり生活したりすることができますか。(中学生)
あなたが理想と思う、1学年当たりの学級数はいくつですか。(教職員)

生徒(中学校3年生)

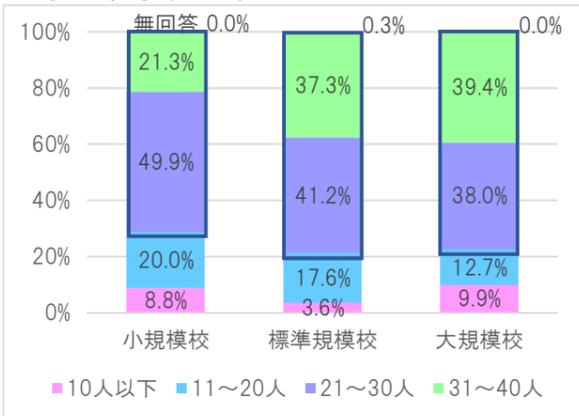


教職員

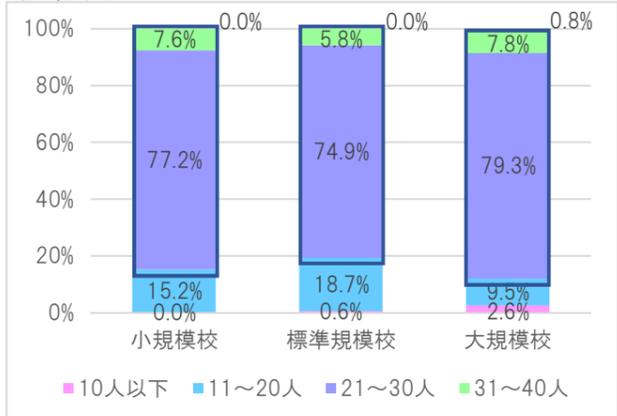


2. 学校規模別

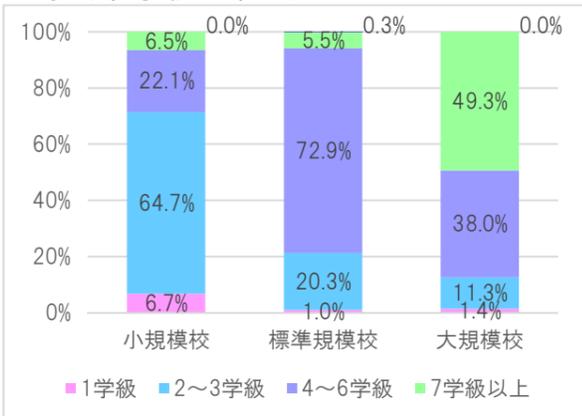
生徒(中学校3年生)



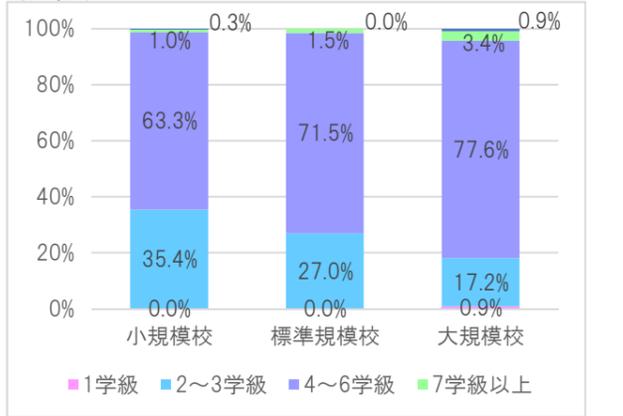
教職員



生徒(中学校3年生)



教職員



令和2年度学校選択制に関するアンケート調査の集計結果について

富山市教育委員会

1 調査期日 令和2年7月20日(月)から7月28日(火)まで

2 調査の対象 中学1年生3350名の生徒及びその保護者(うち3058名が回答・回答率91.3%)

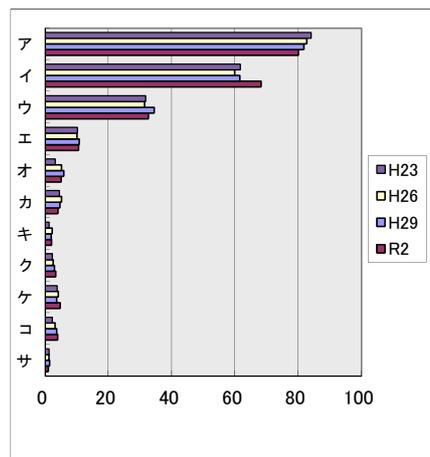
3 調査の結果

(1) 全生徒・全保護者へのアンケート

① 生徒へのアンケート(数字は%)

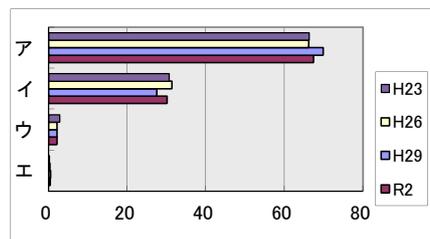
問1 どのような基準で中学校を選びましたか。(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア その学校が一番近い、あるいは通学しやすいから	84.1	82.6	81.8	80.0
イ まわり子どもたちや友人がその中学校に通うだろうから	61.7	59.9	61.5	68.2
ウ 兄姉や親が通っていたから	31.7	31.4	34.5	32.6
エ 希望する部活動があるから	10.2	10.1	10.8	10.6
オ いじめや荒れが少ないから	3.2	5.2	5.9	5.1
カ 中学校と地域とのつながりを大切に思うから	4.5	5.2	4.7	4.1
キ 学校行事や授業などに特色のある学校だから	1.3	2.2	1.9	2.0
ク 教育活動や進路指導がしっかりしているから	2.3	2.6	2.9	3.3
ケ 学校施設、設備が充実しているから	3.8	4.1	3.6	4.8
コ 生徒数の規模が適正と思えるから	2.3	3.1	3.6	3.9
サ その他	1.3	1.2	1.4	1.0



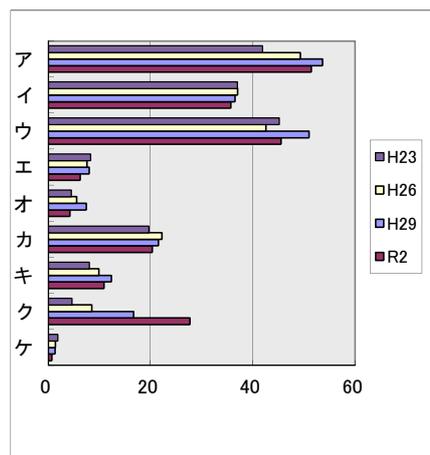
問2 入学して約1か月あまりがたちました。今の中学校に入学して、よかったですか。

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア よかったと思う	66.3	66.2	69.9	67.4
イ だいたいよかったと思う	30.7	31.3	27.5	30.1
ウ あまりよかったですとは思わない	2.8	2.1	2.1	2.1
エ よかったとは思わない	0.2	0.4	0.5	0.4



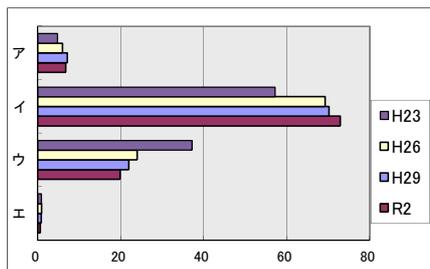
問3 中学校に関する情報をどのようにして得ましたか。(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 学校公開	41.9	49.3	53.6	51.4
イ 知人や友人からの情報	36.9	37.0	36.5	35.7
ウ 家族からの情報	45.2	42.6	51.0	45.5
エ 地域からの情報	8.3	7.5	8.0	6.2
オ 文化祭・体育大会など学校行事	4.5	5.5	7.4	4.2
カ 富山市立中学校紹介冊子	19.7	22.2	21.5	20.3
キ 学校だより	8.0	9.9	12.3	10.9
ク ホームページ	4.6	8.5	16.7	27.7
ケ その他	1.8	1.4	1.3	0.7



問4 学校公開に行きましたか。(1つ選択)

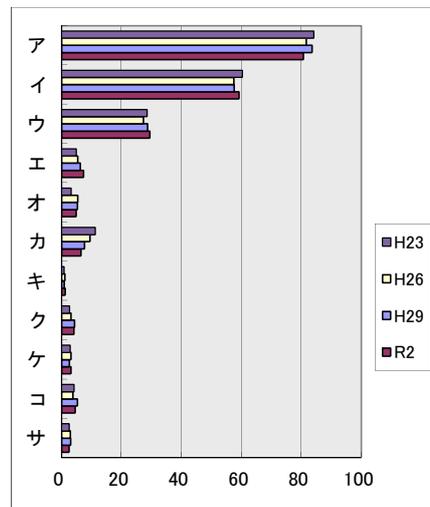
	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 複数の中学校に行った	4.8	5.9	7.1	6.7
イ 1校のみに行った	57.2	69.2	70.2	72.9
ウ 行かなかった	37.2	23.9	21.9	19.8
エ その他	0.9	0.9	0.8	0.6



② 保護者へのアンケート(数字は%)

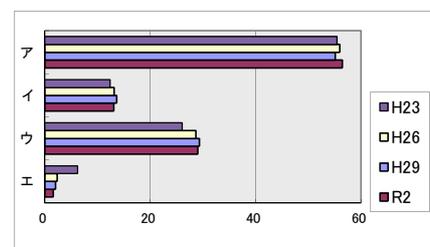
問5 どのような基準で中学校を選びましたか。
(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア その学校が一番近い、あるいは通学しやすいから	84.2	81.6	83.6	80.7
イ まわり子どもたちや友人がその中学校に通うだろうから	60.3	57.5	57.6	59.2
ウ 兄弟や親が通っていたから	28.6	27.3	28.7	29.5
エ 希望する部活動があるから	5.0	5.4	6.3	7.3
オ いじめや荒れが少ないから	3.2	5.4	5.3	4.9
カ 中学校と地域とのつながりを大切に思うから	11.2	9.5	7.7	6.5
キ 学校行事や授業などに特色のある学校だから	0.9	1.1	0.9	1.2
ク 教育活動や進路指導がしっかりしているから	2.7	3.1	4.3	4.1
ケ 学校施設、設備が充実しているから	2.8	3.2	2.6	3.2
コ 生徒数の規模が適正と思えるから	4.2	3.9	5.3	4.6
サ その他	2.5	2.9	3.1	2.5



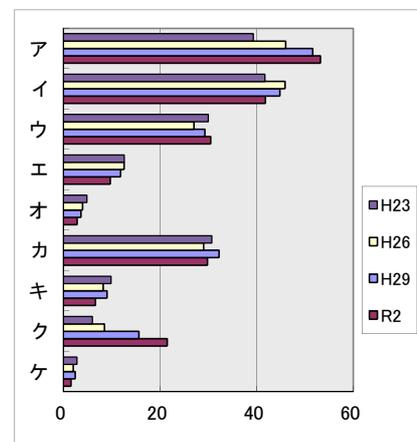
問6 主にだれの意見で中学校を選びましたか。
(1つ選択)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 生徒本人	55.4	55.9	55.1	56.4
イ 保護者	12.3	13.1	13.6	13.1
ウ 親子で相談して	26.0	28.6	29.3	29.0
エ その他	6.2	2.3	2.0	1.6



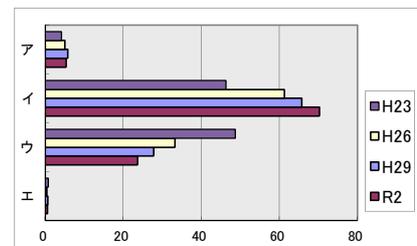
問7 中学校に関する情報をどのようにして得ましたか。(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 学校公開	39.3	46.0	51.6	53.2
イ 知人や友人からの情報	41.7	45.9	44.8	41.8
ウ 家族からの情報	30.0	27.0	29.3	30.5
エ 地域からの情報	12.6	12.6	11.8	9.7
オ 文化祭・体育大会など学校行事	4.9	3.9	3.6	2.8
カ 富山市立中学校紹介冊子	30.7	29.0	32.2	29.8
キ 学校だより	9.9	8.2	9.0	6.6
ク ホームページ	6.0	8.5	15.6	21.5
ケ その他	2.8	2.1	2.4	1.6



問8 学校公開に行きましたか。(1つ選択)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 複数の中学校に行った	4.2	5.0	5.8	5.4
イ 1校のみに行った	46.3	61.3	65.7	70.3
ウ 行かなかった	48.7	33.2	27.8	23.7
エ その他	0.8	0.5	0.7	0.6

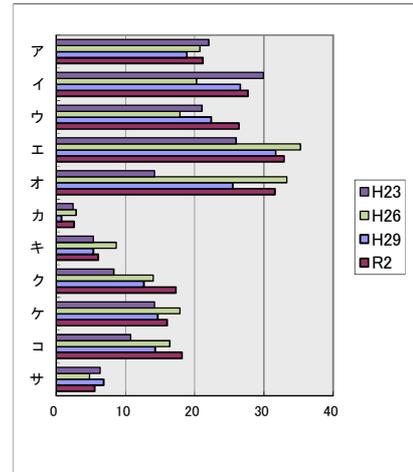


(2) 学校選択制を活用し、学区外から入学した生徒(202名)及び保護者へのアンケート(回答者192名・回答率95.0%)

① 生徒へのアンケート(数字は%)

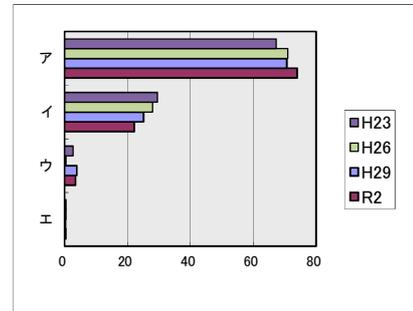
問1 どのような基準で中学校を選びましたか。
(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア その学校が一番近い、あるいは通学しやすいから	22.1	20.8	18.9	21.2
イ まわりの子どもたちや友人がその中学校に通うだろうから	29.9	20.3	26.6	27.7
ウ 姉や親が通っていたから	21.1	17.9	22.4	26.4
エ 希望する部活動があるから	26.0	35.3	31.7	32.9
オ いじめや荒れが少ないから	14.2	33.3	25.5	31.6
カ 中学校と地域とのつながりを大切に思うから	2.5	2.9	0.8	2.6
キ 学校行事や授業などに特色のある学校だから	5.4	8.7	5.4	6.1
ク 教育活動や進路指導がしっかりしているから	8.3	14.0	12.7	17.3
ケ 学校施設、設備が充実しているから	14.2	17.9	14.7	16.0
コ 生徒数の規模が適正と思えるから	10.8	16.4	14.3	18.2
サ その他	6.4	4.8	6.9	5.6



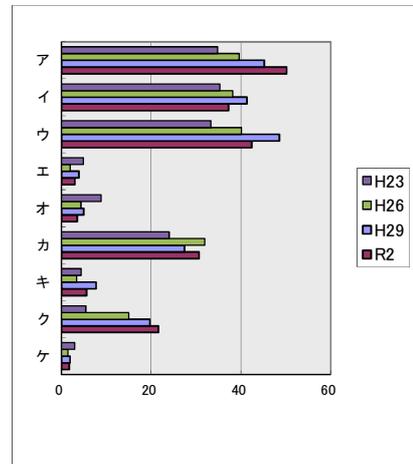
問2 入学して約1か月あまりがたちました。今の中学校に入学して、よかったと思えますか。

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア よかったと思う	67.3	71.0	70.7	74.0
イ だいたいよかったと思う	29.5	28.0	25.1	22.1
ウ あまりよかったとは思わない	2.7	0.5	3.9	3.5
エ よかったとは思わない	0.5	0.5	0.3	0.4



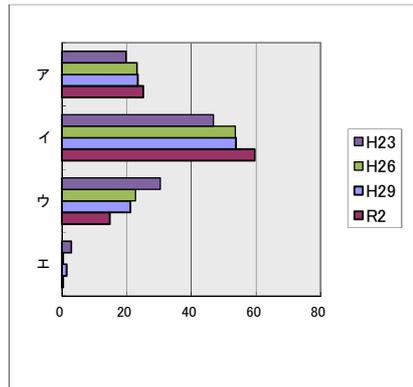
問3 中学校に関する情報をどのようにして得ましたか。(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 学校公開	34.8	39.6	45.2	50.2
イ 知人や友人からの情報	35.3	38.2	41.3	37.2
ウ 家族からの情報	33.3	40.1	48.6	42.4
エ 地域からの情報	4.9	1.9	3.9	3.0
オ 文化祭・体育大会など学校行事	8.8	4.3	5.0	3.5
カ 富山市立中学校紹介冊子	24.0	31.9	27.4	30.7
キ 学校だより	4.4	3.4	7.7	5.6
ク ホームページ	5.4	15.0	19.7	21.6
ケ その他	2.9	1.4	1.9	1.7



問4 学校公開に行きましたか。(1つ選択)

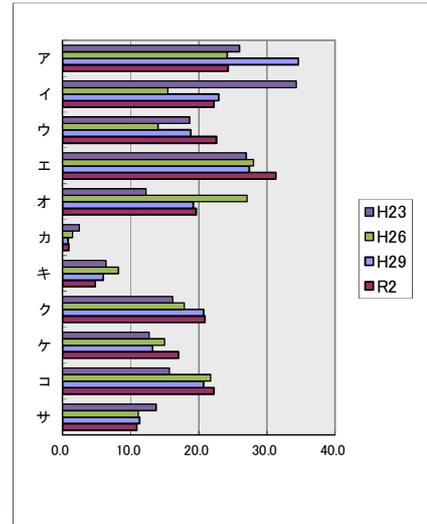
	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 複数の中学校に行った	19.8	23.2	23.5	25.2
イ 1校のみに行った	46.9	53.6	53.8	59.6
ウ 行かなかった	30.4	22.7	21.2	14.8
エ その他	2.9	0.5	1.5	0.4



② 保護者へのアンケート(数字は%)

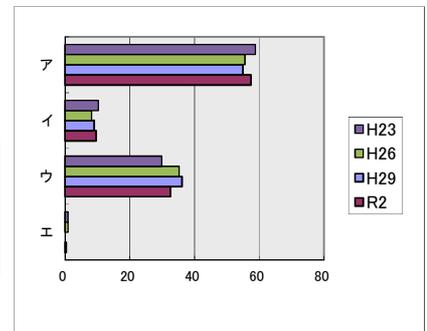
問5 どのような基準で中学校を選びましたか。
(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア その学校が一番近い、あるいは通学しやすいから	26.0	24.2	34.6	24.3
イ まわりの子どもたちや友人がその中学校に通うだろうから	34.3	15.5	22.9	22.2
ウ 兄弟や親が通っていたから	18.6	14.0	18.8	22.6
エ 希望する部活動があるから	27.0	28.0	27.4	31.3
オ いじめや荒れが少ないから	12.3	27.1	19.2	19.6
カ 中学校と地域とのつながりを大切に思うから	2.5	1.4	0.8	0.9
キ 学校行事や授業などに特色のある学校だから	6.4	8.2	6.0	4.8
ク 教育活動や進路指導がしっかりしているから	16.2	17.9	20.7	20.9
ケ 学校施設、設備が充実しているから	12.7	15.0	13.2	17.0
コ 生徒数の規模が適正と思えるから	15.7	21.7	20.7	22.2
サ その他	13.7	11.1	11.3	10.9



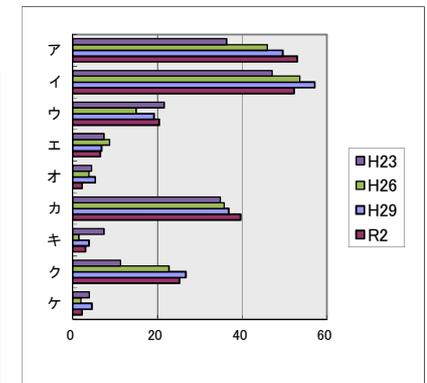
問6 主にだれの意見で中学校を選びましたか。
(1つ選択)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 生徒本人	58.8	55.6	54.9	57.4
イ 保護者	10.3	8.2	9.0	9.6
ウ 親子で相談して	29.9	35.3	36.1	32.6
エ その他	1.0	1.0	0.0	0.4



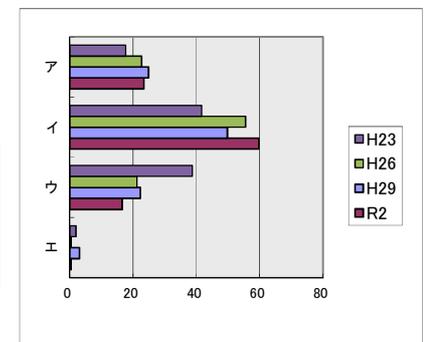
問7 中学校に関する情報をどのようにして得ましたか。(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 学校公開	36.3	45.9	49.6	53.0
イ 知人や友人からの情報	47.1	53.6	57.1	52.2
ウ 家族からの情報	21.6	15.0	19.2	20.4
エ 地域からの情報	7.4	8.7	6.8	6.5
オ 文化祭・体育大会など学校行事	4.4	3.9	5.3	2.2
カ 富山市立中学校紹介冊子	34.8	35.7	36.8	39.6
キ 学校だより	7.4	1.4	3.8	3.0
ク ホームページ	11.3	22.7	26.7	25.2
ケ その他	3.9	1.9	4.5	2.2



問8 学校公開に行きましたか。(1つ選択)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 複数の中学校に行った	17.6	22.7	24.9	23.4
イ 1校のみに行った	41.7	55.6	49.8	59.7
ウ 行かなかった	38.7	21.3	22.3	16.5
エ その他	2.0	0.5	3.0	0.4



4 保護者による自由記述（主な意見）

（1）制度

- ① 生徒が自分の意志で選択して入学できることは子どもにとってよい制度である。
- ② 学校選択制をきっかけに、親子で学習や部活動、学校行事等、様々な観点から中学校生活について考え、話し合うことができた。
- ③ 金銭的、家庭的な事情で区域外の学校に行けない可能性がある。
- ④ 中学生のうちは、地元の学校で地域に密着した生活を送ることが大切である。

（2）要望等

- ① 自転車通学
 - ・ 学区外通学における自転車通学について、認めてほしい。
- ② 学校公開日
 - ・ 学校公開日が同じ日であるため、1校しか見学できない。複数校の見学を可能にしてほしい。
- ③ その他
 - ・ 学校選択制の導入によって、地元への愛着の低下が危惧される。（小規模校における生徒数の減少等）

5 まとめ

（1）結果の考察

① 中学校を選んだ基準

「どのような基準で中学校を選びましたか」という設問に対して、生徒・保護者のそれぞれ8割以上が「その学校が一番近い、あるいは通学しやすいから」と答えている。また、6割近くの生徒・保護者が「まわり子どもたちや友人がその中学校に通うだろうから」と答えている。この結果は3年前のアンケート結果とほぼ同じ傾向であり、ほとんどの生徒・保護者が、通学区域にある学校を選択していることがうかがえる。

学区外からの入学生の選択理由については、「希望する部活動があるから」が最も多く、次いで「まわり子どもたちや友人がその中学校に通うだろうから」「兄弟や親が通っていたから」「いじめや荒れが少ない」が多い。特に「いじめや荒れが少ない」は3年前から大きく数値が上がっており、関心が高まっていることがうかがえる。

② 中学校に関する情報

「中学校に関する情報をどのようにして得ましたか」という設問に対して、「ホームページ」の数値が3年前と比べて上がっており、中学校のホームページが充実してきていることがうかがえる。「学校公開に行きましたか」の設問に対する回答も、「行った」と回答している割合が年々伸びており、中学校生活の様子への関心が高まっていることが分かる。

③ 主に中学校を選んだ人

「主にだれの意見で中学校を選びましたか」という設問に対して、「生徒本人」が約56%と一番多く、続いて、「親子で相談」が29%となっていることから、生徒の主体性が尊重されるとともに、親子での相談が大切にされていることがうかがえる。これは3年前とほぼ同じ数値を示している。

④ 中学校に入学しての感想

「今の中学校に入学してよかったと思いますか」という設問に対して、約97%の生徒が「よかったと思う」あるいは「だいたいよかったと思う」と回答していることから、3年前と同様、多くの子どもが自分自身や親子で相談して今の中学校を選び、入学後、今の中学校生活に満足していることがうかがえる。

(2) 保護者による自由記述について

- ① 4(2) 要望等の②学校公開日については、「開催日が同じ日なので、1校しか見学できない」「もっと公開日を増やしてほしい」といった要望が多くみられた。問3と問7の結果を見ると、ホームページを情報源としている人がそれぞれ20%を超えており、3年前と比べて情報源としている人がかなり増加している。各中学校では、例年合唱コンクールや体育大会等の学校行事も学校公開としているが、統一公開日以外にもそうした機会を捉えて参加してもらえるように、行事予定を周知していく必要がある。

(3) 今後に向けて

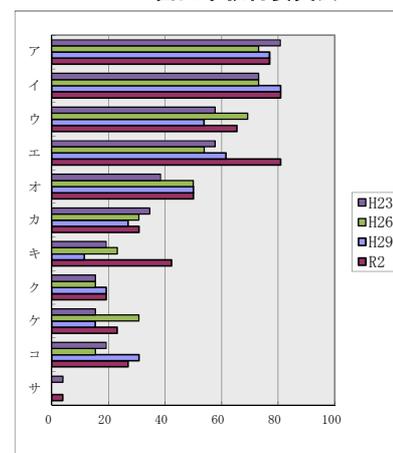
- ① 本市の学校選択制は、生徒の中学校生活への自主的な心構えが育つことを願い、通学区域外の中学校を希望した場合、受け入れ可能な人数の範囲内で入学することができる制度である。本市の学校選択制の趣旨については、今後も関係者への説明と理解に努めていきたい。
- ② 今後、学校の地域性や施設の実情、関係者の意見等を踏まえて、学校選択制のよりよい活用を目指した情報提供に努めたい。

令和2年度学校選択制に関するアンケート調査(中学校)の集計結果

富山県教育委員会

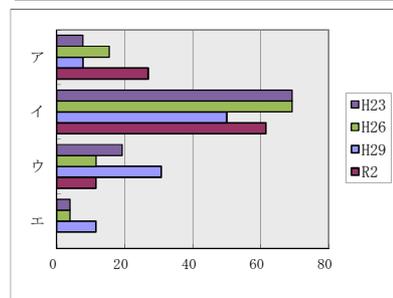
問1 「学校選択制」において、生徒・保護者が貴校をどのような基準で選択したと思いますか。
(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 通学の便(時間・距離・安全性・交通機関等)	80.8	73.1	76.9	76.9
イ 卒業小学校の友人関係	73.1	73.1	80.8	80.8
ウ 姉妹・親族の通学状況	57.7	69.2	53.8	65.4
エ 希望する部活動の有無や活動状況	57.7	53.8	61.5	80.8
オ 生徒の様子	38.5	50.0	50.0	50.0
カ 地域とのつながり	34.6	30.8	26.9	30.8
キ 学校の教育方針や伝統	19.2	23.1	11.5	42.3
ク 卒業生の進路状況や学力に関する評判	15.4	15.4	19.2	19.2
ケ 学校の施設・設備	15.4	30.8	15.4	23.1
コ 学校の規模	19.2	15.4	30.8	26.9
サ その他	3.8	0.0	0.0	3.8



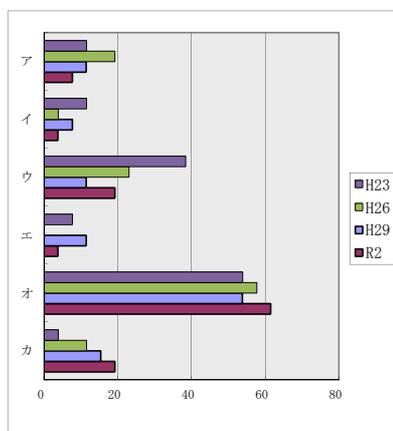
問2 あなたの学校では、「学校選択制」の導入により、生徒が自らの意志で、自分にあった学校を選べるようになったことで、充実した学校生活を送っていると思いますか。

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 思う。	7.7	15.4	7.7	26.9
イ どちらかといえば思う。	69.2	69.2	50.0	61.5
ウ どちらかといえば思わない。	19.2	11.5	30.8	11.5
エ 思わない。	3.8	3.8	11.5	0.0



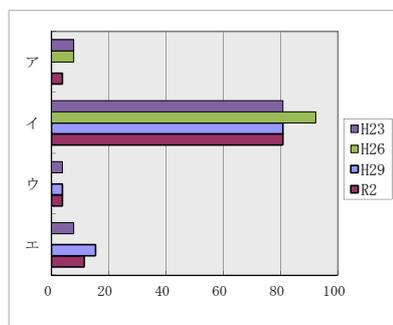
問3 あなたの学校では、「学校選択制の導入により、生徒指導面に影響があったと思われるか。(複数回答可)

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 自ら選択した学校なので生徒に自覚があり、生徒指導上の問題が減った。	11.5	19.2	11.5	7.7
イ 通学区域外の生徒について、家庭との連携がとりにくくなった。	11.5	3.8	7.7	3.8
ウ 通学距離が長くなり、安全性や生活指導面での課題が多くなった。	38.5	23.1	11.5	19.2
エ 地元(地域)の学校という意識が薄れ始め、愛校心が育ちにくくなった。	7.7	0.0	11.5	3.8
オ 特に影響はない。	53.8	57.7	53.8	61.5
カ その他	3.8	11.5	15.4	19.2



問4 あなたの学校では、「学校選択制」の導入により、地域とのつながりに影響があったと思いますか。

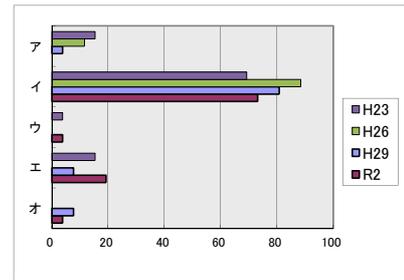
	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 今まで以上に地域からの支援や協力が得られるようになった。	7.7	7.7	0.0	3.8
イ 今までと変わらない。	80.8	92.3	80.8	80.8
ウ 通学区域外から通学する生徒が増加したため、地域と学校とのつながりが弱くなった。	3.8	0.0	3.8	3.8
エ その他	7.7	0.0	15.4	11.5



問5 あなたの学校では「学校選択制」の導入により、保護者の意識が変化しましたか。

23年度 26年度 29年度 R2年度

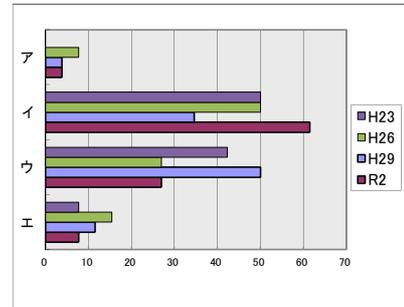
	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 学校への関心が今まで以上に高まり、PTA活動などに積極的に参加する保護者が増えた。	15.4	11.5	3.8	0.0
イ 今までと変わらない。	69.2	88.5	80.8	73.1
ウ PTA活動や学校行事等に消極的な保護者が増えた。	3.8	0.0	0.0	3.8
エ 個別に学校と連絡を取る保護者が増え、個別の要求が多くなってきた。	15.4	0.0	7.7	19.2
オ その他	0.0	0.0	7.7	3.8



問6 「学校選択制」を導入したことにより、今まで以上に学校が活性化しましたか。

23年度 26年度 29年度 R2年度

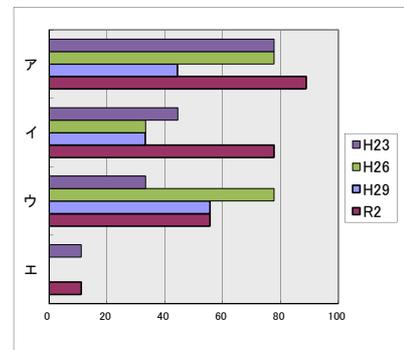
	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 思う。	0.0	7.7	3.8	3.8
イ どちらかといえば思う。	50.0	50.0	34.6	61.5
ウ どちらかといえば思わない。	42.3	26.9	50.0	26.9
エ 思わない。	7.7	15.4	11.5	7.7



問7 具体的に変化しましたか。(問6でア及びイと答えた学校のみ)

23年度 26年度 29年度 R2年度

	23年度	26年度	29年度	R2年度
ア 選ばれる学校に向け、教職員の意識が変わった。	77.8	77.8	44.4	88.9
イ 「学校選択制」への取り組みの中で、教育の質が向上した。	44.4	33.3	33.3	77.8
ウ 保護者・生徒の学校に対するニーズが明らかになり、学校の質が向上した。	33.3	77.8	55.6	55.6
エ その他	11.1	0.0	0.0	11.1



<アンケート結果より>

◎ 学校選択制の導入によってよかったこと

- ・ 3年前と比べて、「生徒が充実した学校生活を送っている」の設問に対して、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した学校が約88%あり、ほとんどの学校で生徒が充実した学校生活を送っている。
- ・ 「今まで以上に学校が活性化した」の設問に対して、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した学校が約65%あり、3年前に比べてその割合が増加している。

◎ 学校選択制の導入によるこれからの課題

- ・ 「今まで以上に学校が活性化した」のことに對する具体として、「選ばれる学校に向け、教職員の意識が変わった」「『学校選択制』への取り組みの中で教育の質が向上した」との回答が3年前に比べて大きく増加している。保護者や生徒のニーズを捉えつつ、今後もよりよい学校を目指して、教育の質の向上に取り組んでいく必要がある。

◎概要

アンケート結果より

問1と5	「どのような基準で中学校を選びましたか」で、学区外から入学した生徒と保護者は「学校を選ぶ基準」として、「部活動」と「いじめや荒れが少ない」を重視していることがうかがえる。また、「教育活動や進路指導」「生徒数の規模が適正」も高く、学区外の学校を選択する際の決め手となっている。
問2	学校再開後、1か月が経過し、今の中学校に入学して「ア.よかったと思う」「イ.だいたいよかったと思う」を合計すると、97%となり、3年前とほぼ同数のポイントであり、生徒はおおむね満足しているといえる。
問3と7	進学する中学校を決定するにあたり、情報をどのように得たかという質問では、生徒と保護者ともに「ホームページ」が伸びてきている。
問4と8	「学校公開に行きましたか」という設問に対して、生徒・保護者ともに3年前と比べてポイントが上がっており、生徒の約80%、保護者の約75%が1回以上、学校公開日に出かけている。公開日が統一されているため、複数校の見学が可能になるよう配慮してほしいという要望がより強くなっている。

◎主な賛成意見

<ul style="list-style-type: none">・ 自分のやりたいことや特色を考慮して進学先を選択できる制度は素晴らしい。・ 学校選択制によって、子どもが自分で考え、行動し、その行動により今後が大きく変わっていくということを体験でき、3年間頑張る力になっているようなので、ねらいのとおりだと感じている。・ 生徒本人の希望や家庭状況等で行きたい学校が選べることは、様々な問題解決になる。・ 子どもが「自分で決めた」という責任感をもて、卒業生の話を聞いて考える機会ができてよかった。・ 我が家では、期限ぎりぎりまで悩んだ。最後は本人が決めたが、小学6年で自分の夢や将来について考え、いろんな情報を自分で集め、考え、判断した経験がとてもよかった。自分で選んだ中学校での生活を、今は思いきり楽しんでいる。・ 中学校に上がる前に選択制があると、親子で進路について早めに話し合えるのでよい。・ 学校側も、「選ばれる学校」となるよう様々な面で学校をよくしようとする点もよい。・ 人間関係や部活動に対しても選択肢が広がるのでよい。・ 選択できることで、自分の意見をもって学校生活を送ることができる。・ 子どもと一緒に情報を集めることで、本人の関心が高まる。

◎主な反対意見

- 公立学校はどこに行っても同じだと思う。わざわざ手間暇かけて学校選択制を行う理由が分からない
- 希望が集中する学校とそうでない学校との間で差が広がる。
- 抽選会で残念ながら外れてしまったお子さんを見るのがつらかった。これも一つの試練なのかもしれないが、子どもに立ち会わせる必要があるのか。子供の気持ちにもう少し配慮できる形になるとよい。
- 居住地で通学先が決まった方がシンプルで分かりやすい。選択制を利用する人は少数なので、そのための説明会に参加することが面倒だし、調整が大変だと思うので不要。
- 中学生の段階で選択制にする必要はない。
- 他校に生徒が流れ、人数が減少していることを考えると、選択制には賛成できない。部活動も限られ、子どもの選択肢も限られてくる。
- 部活動の充実した学校を選ぶ場合が多いので、どうしても規模の大きな学校により人が集まる傾向がある。小規模校の人数がますます減少し残念に思う。
- 個人の自由や意見を尊重する時代ではあるが、地域の特色を生かした、地域独特の子を地域が育てるのもよいと思う。
- 通学方法が限られる地域だと、選択のしようがない。

◎要望等

- どの中学校も、生徒や保護者から選ばれる学校であってほしい。
- 選択するほどの学校の情報を得られない。教育内容の特徴等、もう少し明確な指標があれば、学校選択制のメリットは大きいと思う。
- 子どもが自分で考えて選ぶことが大切だと思うので、子どもに理解できるような情報があればよい。
- 校区外ではホームページしか情報収集ができない。学校行事等の当日のスケジュール等を分かるようにしてもらいたい。
- 選択制の前に、校区域を見直した方がよい。
- 学校公開日は全ての学校で同じ時間帯に短時間で行われ、他校に移動するのが時間的に難しいので、もう少し長い時間公開されていればよかった。
- 学校公開日は一日しかないので、一校にしか行けず、比較ができない。
- 学校公開日をずらして、複数の学校を見学できるようにしてほしい。
- 校区外からこの学校を選択したが、地元の学校も見学できると学校の違いも見えるのではないかな。
- 同じ日に公開するのならば、学校や部活動等の説明のオリエンテーションの内容をホームページで見られるような工夫をしてほしい。
- 本人の生き方にかかわるので、可能な限り校区外希望者数を選別せずに受け入れていただきたい。
- 部活動で選択したが、顧問が異動された場合、希望のやり直しをしてほしい。
- 小規模校の部活動が他区域からでも参加したくなる魅力的なものになるよう配慮してほしい。
- 希望する部活動があるからという理由で他校区から通う方の存在も分かるが、そこからいじめや荒れにつながるような学校の存在、先生方と保護者両方のつながりを大切にしていきたい。
- 校区外でも自転車通学が可能になるように市で決めていただけるとありがたい。
- スクールバスを出して、どこでも選択できる制度があるとよい。近隣の中学校で人数差が大きすぎる。
- 学校選択制に加えて、学籍を置かなくても家庭学習で学ぶ形が公的に認められたらよいと思う。外国では、ホームスクーリングの専用の窓口が認められており、子どもたちの学びを支えている。
- 学校選択制の申請の紙を提出できる期間が短い。
- 期間内に希望校を決めても、友達や先輩の話を聞いて気が変わることもあると思うので、書類提出後も希望変更が可能な期間をつくってほしい。
- 紹介の冊子に、中学校での通級可能な学校が分かればよい。

令和元年度富山市立小中学校の問題行動等調査の結果について

【富山市教育委員会】

○児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(以下問題行動等調査)の概要

本調査は、文部科学省によって実施される「いじめ」「暴力行為」「不登校」等の生徒指導上の諸課題に関する調査である。調査対象は全国の小・中学校、高等学校であり、その結果は今後の生徒指導施策推進の参考とされる。(令和2年10月22日 結果公表)

本市では、全市立小学校65校1分校、全市立中学校26校1分校で本調査を実施しており、国と同様、調査結果を教育施策に活用している。

1 不登校

「不登校」とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいは、したくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的な理由」による者は除く)」をいう。本調査では、年間30日以上欠席した不登校児童生徒を対象としている。

◆不登校児童生徒数及び出現率

	年度	富山市		富山県		全国
小学校	H26	83	(3.8)	215	(3.9)	(4.0)
	H27	79	(3.7)	205	(3.8)	(4.3)
	H28	90	(4.2)	194	(3.7)	(4.7)
	H29	119	(5.8)	279	(5.4)	(5.4)
	H30	134	(6.6)	334	(6.6)	(7.0)
	R 1	187	(9.4)	425	(8.5)	(8.3)
中学校	H26	231	(20.5)	583	(19.7)	(28.8)
	H27	213	(19.2)	597	(20.5)	(29.5)
	H28	235	(21.3)	608	(21.3)	(31.4)
	H29	256	(23.8)	635	(22.3)	(32.5)
	H30	318	(30.0)	801	(28.7)	(36.5)
	R 1	353	(34.0)	846	(31.1)	(39.4)

※()は、1,000人当たりの不登校児童生徒数。富山市の数値は公立校分。

※富山県と全国の数値は、平成26～28年度は公立校分、平成29～令和1年度は国公立校分。

◆不登校児童生徒の欠席期間別実人数及び割合

単位:人

		富山市			富山県			全国		
		不登校児童生徒数	90日以上	全休	不登校児童生徒数	90日以上	全休	不登校児童生徒数	90日以上	全休
小学校	H30	134	58 (43.3)	2 (1.5)	334	144 (43.1)	12 (3.6)	44,841	20,047 (44.7)	1,159 (2.6)
	R1	187	84 (44.9)	5 (2.7)	425	180 (42.4)	13 (3.1)	53,350	22,632 (42.4)	1,601 (3.0)
中学校	H30	318	187 (58.8)	12 (3.8)	801	461 (57.6)	29 (3.6)	119,687	75,588 (63.2)	4,867 (4.1)
	R1	353	196 (55.5)	16 (4.5)	846	488 (57.7)	34 (4.0)	127,922	78,225 (61.2)	5,757 (4.5)

※()は、不登校児童生徒全体に占める90日以上と全休の児童生徒の割合(%)。

※富山市の数値は公立校分。全国と富山県の数値は、国公立校分。

【考察】

- (1) 不登校児童生徒数は、540人(小学校187人、中学校353人)であり、前年度から88人(小学校53人、中学校35人)増加した。また、その出現率も、小・中学校ともに増加した。
- (2) 不登校の要因については、「無気力・不安」が384人(小学校136人、中学校248人)、「生活リズムの乱れ・あそび・非行」が82人(小学校25人、中学校57人)と、本人自身に係るものが多かった。また、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が127人(小学校32人、中学校95人)、「学業の不振」が93人(小学校28人、中学校65人)、「親子の関わり方」が67人(小学校43人、中学校24人)と、仲違い、成績の不振、家庭等に係る状況が原因と考えられる不登校も多く見られた。
- (3) 担任やカウンセリング指導員、SC、SSW等のかかわりによって、不登校児童生徒169人(小学校39人、中学校130人)が登校できるようになった。また、124人(小学校45人、中学校79人)が継続した登校には至らないものの、学校復帰に向けて好ましい変化が見られるようになった。
- (4) 不登校児童生徒159人(小学校70人、中学校89人)が適応指導教室や教育センター、病院等の学校外の機関から学習支援やカウンセリング等を受けている。90日以上欠席の児童生徒が増えている。適応指導教室やフリースクール等と連携を図るとともに、「学校に行きづらい」と感じている子どもたちを支援する野外教育活動センターでの「自然体験」や、不登校児童生徒を抱える保護者との相談会の実施等、今後とも継続的な自立支援及び保護者との連携が必要である。

◆学校外の機関等で相談・指導等を受けた不登校の児童生徒数

単位:人

	小学校	中学校	計
適応指導教室	25	23	48
市教育センター・SSW相談	11	13	24
児童相談所・福祉事務所	2	3	5
保健所・精神福祉センター	0	1	1
病院・診療所	27	35	62
民間団体・民間施設	5	14	19
上記以外の機関等	0	0	0
計	70	89	159

※複数の機関で支援等を受けている児童生徒もいる。

- (5) 学年別に不登校児童生徒数を見ると、小学校では3年生から増加している。また、環境や友人関係が大きく変わる中学校1年生、中学1年生から2年生で増加し、中学校3年生では減少した。

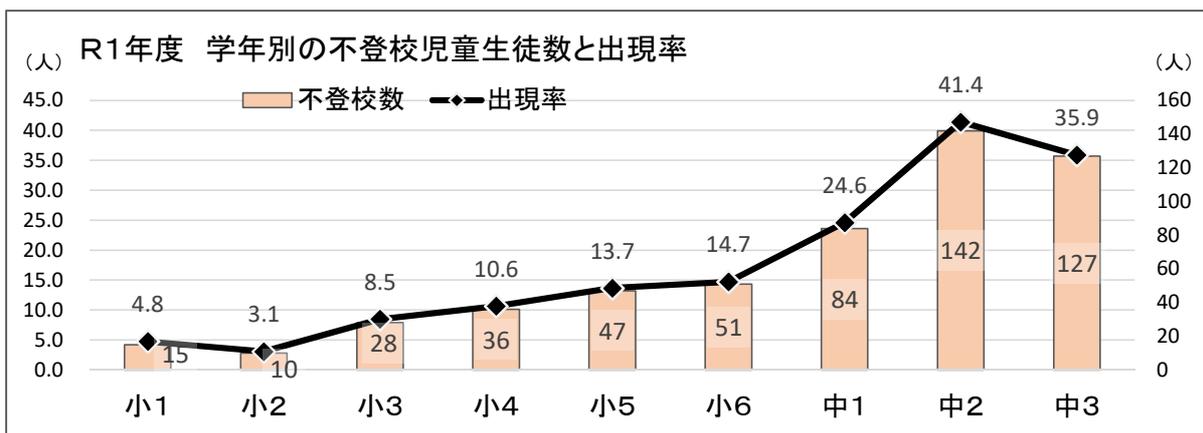
特に、中学校1年生で急増することから、大きく変化する学習内容や環境への不安を少しでも軽減できるよう、小・中学校の連携による教員研修や児童生徒が共同で行う挨拶運動、ボランティア活動、入学説明会等を行うなど、小・中学校間の円滑な接続に努めている。

◆学年別の不登校児童生徒数

単位:人

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
H30	6	13	13	26	32	44	134
R1	15	10	28	36	47	51	187

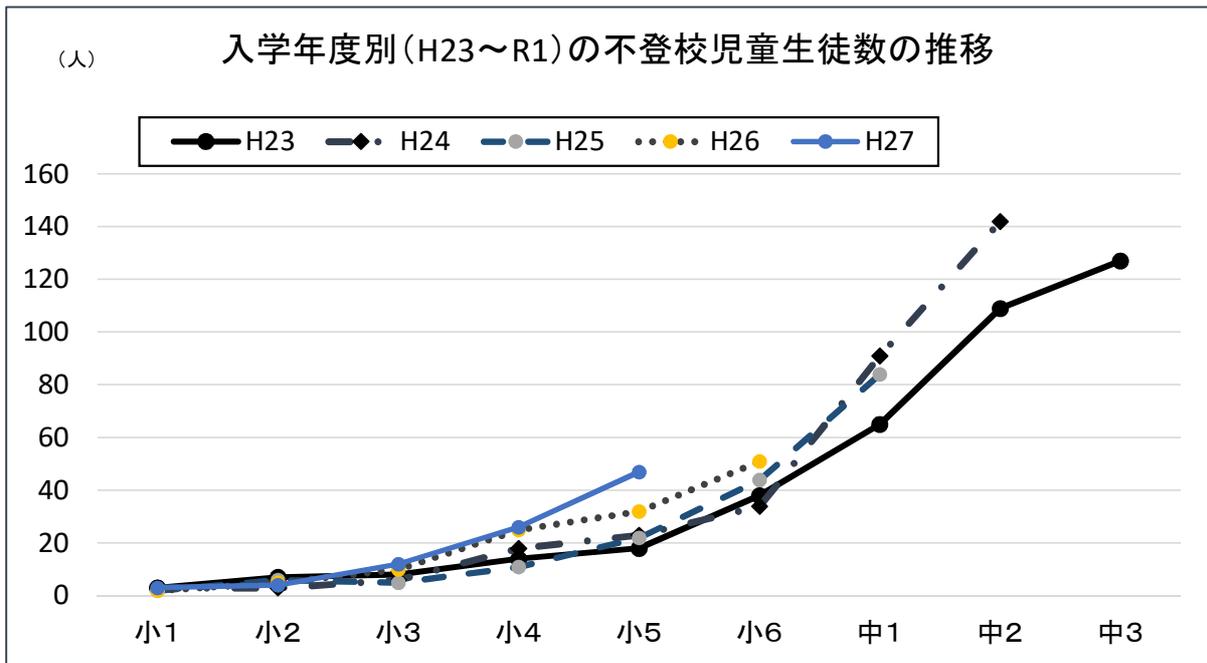
中学校	1年	2年	3年	計
H30	91	109	118	318
R1	84	142	127	353



(出現率は、1,000人当たりの不登校児童生徒数)

- (6) 入学年度別に不登校児童生徒数の推移を見ると、どの年度においても小学校3年生から急増し、その後学年が上がるにしたがって増加傾向がある。

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
H23年度入学	3	7	8	14	18	38	65	109	127
H24年度入学	3	3	6	18	23	34	91	142	-
H25年度入学	2	6	5	11	22	44	84	-	-
H26年度入学	2	5	10	25	32	51	-	-	-
H27年度入学	3	4	12	26	47	-	-	-	-



2 長期欠席者

「長期欠席者」とは年間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒を対象としている。また、欠席理由は、「病気」「経済的理由」「不登校」「その他」としている。

※小・中学校における長期欠席の状況等に関する調査については、26年度まで学校基本調査における「理由別長期欠席者数」の項目で調査していたが、27年度から本調査に移行した。

◆長期欠席児童生徒数及び出現率

	年度	富山市		富山県		全国
小学校	H26	161	(7.4)	374	(6.9)	(8.8)
	H27	162	(7.5)	405	(7.5)	(9.5)
	H28	175	(8.3)	407	(7.7)	(10.4)
	H29	211	(10.2)	508	(9.8)	(11.2)
	H30	208	(10.2)	518	(10.2)	(13.0)
	R1	264	(13.2)	598	(12.0)	(14.5)
中学校	H26	318	(28.2)	800	(27.0)	(36.6)
	H27	315	(28.3)	842	(28.9)	(36.2)
	H28	339	(30.8)	903	(30.8)	(38.4)
	H29	365	(34.0)	912	(32.0)	(43.0)
	H30	415	(39.1)	1,064	(38.2)	(47.6)
	R1	441	(42.5)	1,065	(39.1)	(50.1)

※()は、1,000人当たりの長期欠席児童生徒数。富山市の数値は公立校分。

※富山県と全国の数値は、平成26~28年度は公立校分、平成29~令和1年度は国公立校分。

【考察】

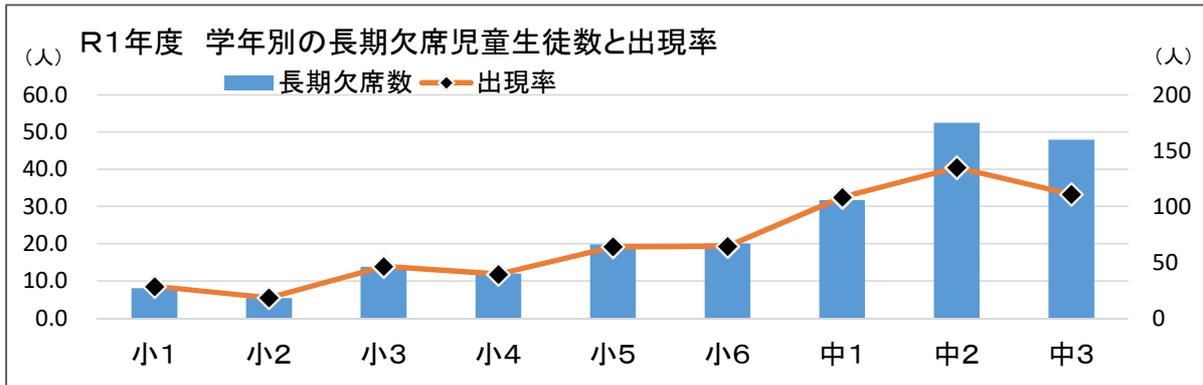
- (1) 長期欠席児童生徒数は、705人(小学校264人、中学校441人)であり、前年度から小学校では56人増加、中学校では26人増加した。出現率は、小学校、中学校とも増加した。
- (2) 長期欠席者数の内訳は、「不登校」が540人(小学校187人、中学校353人)、「病気」が76人(小学校23人、中学校53人)、「その他」が89人(小学校54人、中学校35人)である。
- (3) 「その他」の内容としては、「保護者の教育に関する考え方」、「家庭の事情」等があり、家庭の状況が本人の登校状況に影響を与えている。
- (4) 長期欠席者は学年が上がるにつれて、増加する傾向にある。断続的に欠席が続くと、長期化する傾向があるので、初期段階(2～3日連続した欠席)での対応が重要になる。
- (5) 欠席が多くなりがちな児童生徒には、「昼夜逆転傾向」、「友人関係が上手くいかない」、「特定の教科が苦手である」など、登校を渋る要因や背景があることを理解した上で、子どもに寄り添った支援や指導を進めることが大切である。

◆学年別の長期欠席児童生徒数

単位:人

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
H30	10	32	30	37	43	56	208
R1	27	18	46	40	66	67	264

中学校	1年	2年	3年	計
H30	111	139	165	415
R1	106	175	160	441



(出現率は、1,000人当たりの長期欠席児童生徒数)

3 いじめ

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」をいう。

◆いじめの認知件数

単位:件

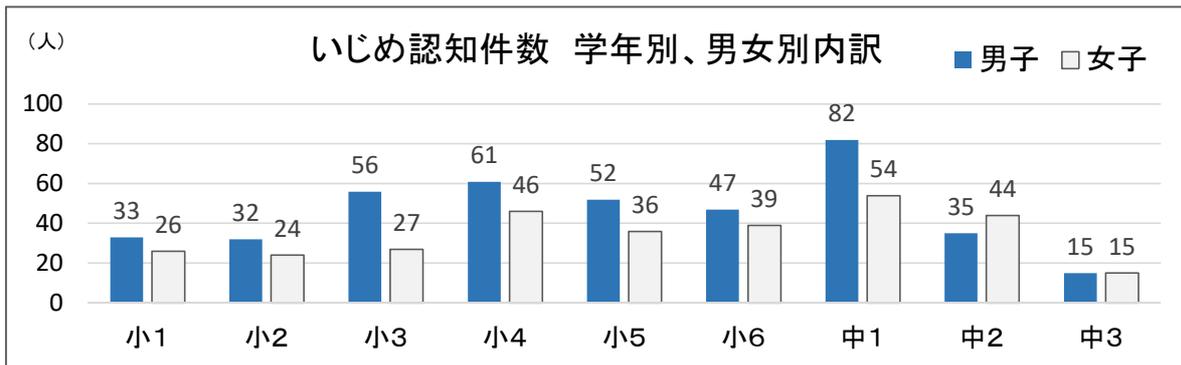
	年度	富山市		富山県		全国
小学校	H26	217	(10.0)	482	(8.8)	(18.8)
	H27	181	(8.4)	502	(9.3)	(23.3)
	H28	172	(8.1)	482	(9.1)	(36.8)
	H29	194	(9.4)	470	(9.1)	(49.1)
	H30	362	(17.7)	794	(15.6)	(66.0)
	R1	479	(24.0)	1049	(21.0)	(75.8)
中学校	H26	142	(12.6)	347	(11.7)	(15.8)
	H27	191	(17.2)	413	(14.2)	(17.8)
	H28	158	(14.4)	387	(13.6)	(21.7)
	H29	138	(12.8)	366	(12.8)	(24.0)
	H30	192	(18.1)	455	(16.3)	(29.8)
	R1	245	(23.6)	526	(19.3)	(32.8)

※()は、1,000人当たりのいじめ認知件数。富山市の数値は公立校分。

※富山県と全国の数値は、平成26～28年度は公立校分、平成29～令和1年度は国公立校分。

【考察】

- (1) いじめの認知件数は、724件(小学校479件、中学校245件)であり、前年度から170件(小学校117件、中学校53件)増加した。また、出現率も小・中学校ともに増加した。
- (2) いじめ認知件数零校は小学校が1分校、中学校が1校1分校であり、前年度から1小学校減少した。
- (3) いじめ解消率は、小学校90.2%、中学校91.0%であった。未解消であった小学校47件のうち41件、中学校22件のうち20件は現在解消されている。残りの小学校6件、中学校2件の事案については、現在も解消に向けて取り組み中である。
- (4) 学年別のいじめの認知件数については、小学校では、学年が上がるにつれていじめが増加する傾向にあるが、5、6年生で減少している。一方、中学校では、1年生が最も多く、学年が上がるにつれて減少している。
- (5) いじめの男女比については、小・中学校ともに男子のいじめが多い傾向にある。(小学校では男子59%、女子41%、中学校では男子54%、女子46%)



- (6) いじめ発見のきっかけについては、「学校の教職員以外の発見」が459件(小学校292件、中学校167件)である。中でも「保護者からの情報」が250件(小学校185件、中学校65件)と最も多く、次に「本人からの訴え」が124件(小学校50件、中学校74件)であった。一方、「学校の教職員等が発見」は265件(小学校187件、中学校78件)であり、全件数の36.6%(前年度29.6%)となっている。
- (7) 今後も、各学校が「いじめ防止対策推進法」に規定するいじめの定義を正確に解釈して、いじめの認知を行い、ごく初期段階のいじめ等も積極的に認知するとともに、「いじめはどの学校でも、どの子どもにも起こり得る」という意識の基、アンケートや個別面談等による実態把握を積極的に行い、早期発見や即時対応、未然防止に努める必要がある。

4 暴力行為

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が故意に有形力(目に見える物理的な力)を加える行為」をいう。被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」(教師に限らず、用務員等の学校職員も含む)、「生徒間暴力」(何らかの人間関係のある児童生徒同士に限る)、「対人暴力」(対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く)、学校の施設・設備等の「器物損壊」の4形態に分ける。

◆暴力行為の発生件数

単位:件

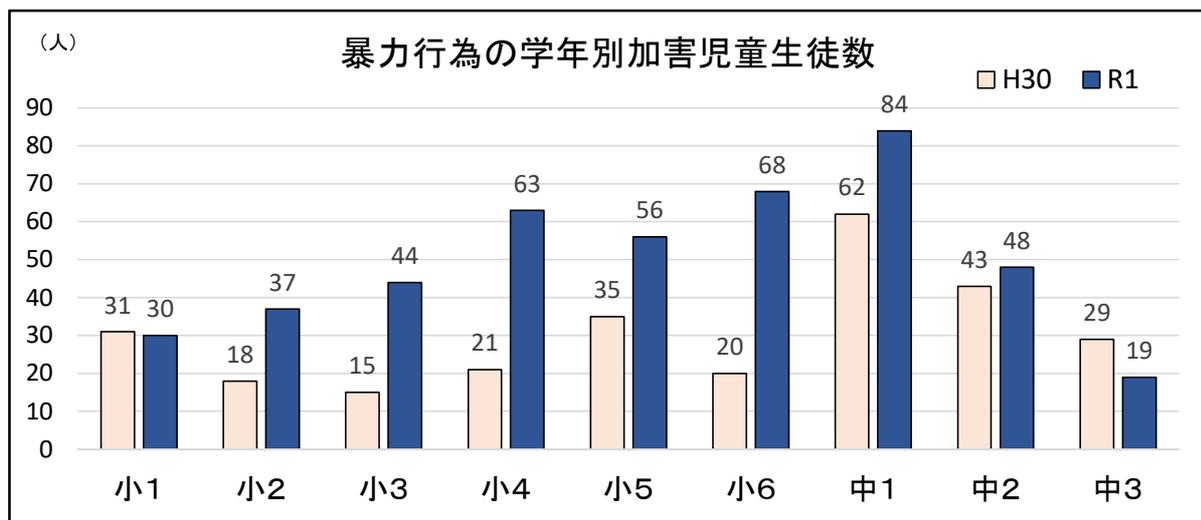
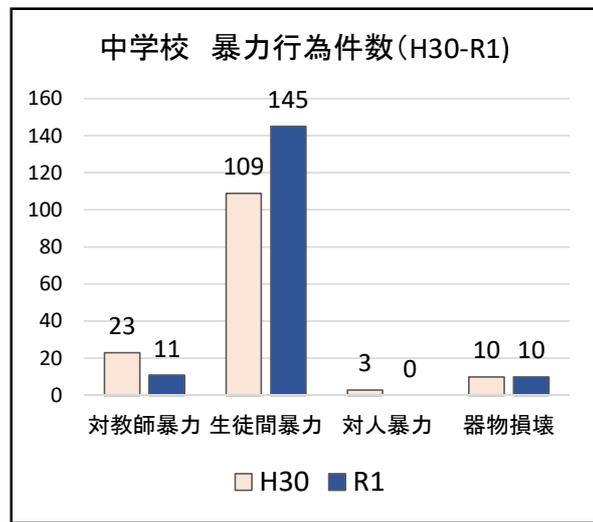
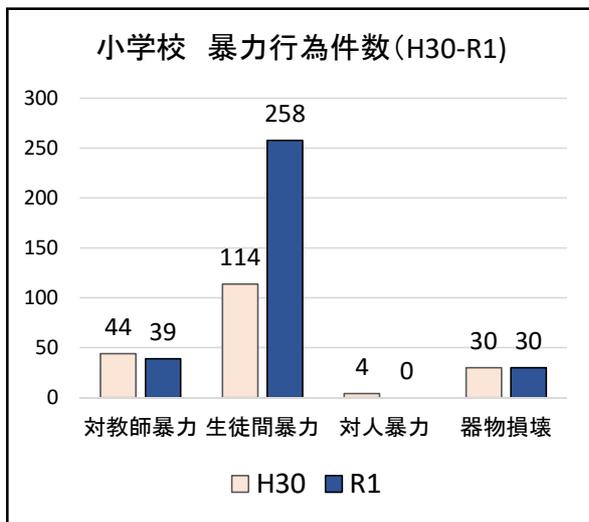
	年度	富山市		富山県		全国
小学校	H26	16	(0.7)	44	(0.8)	(1.7)
	H27	19	(0.8)	55	(1.0)	(2.6)
	H28	18	(0.9)	61	(1.2)	(3.5)
	H29	70	(3.4)	147	(2.8)	(4.4)
	H30	192	(9.4)	404	(7.9)	(5.7)
	R 1	327	(16.4)	554	(11.1)	(6.8)
中学校	H26	79	(7.0)	177	(6.0)	(10.7)
	H27	77	(6.8)	170	(5.9)	(10.0)
	H28	34	(3.0)	117	(4.1)	(9.2)
	H29	50	(4.7)	186	(6.5)	(8.5)
	H30	145	(13.7)	298	(10.7)	(8.9)
	R 1	166	(16.0)	283	(10.4)	(8.8)

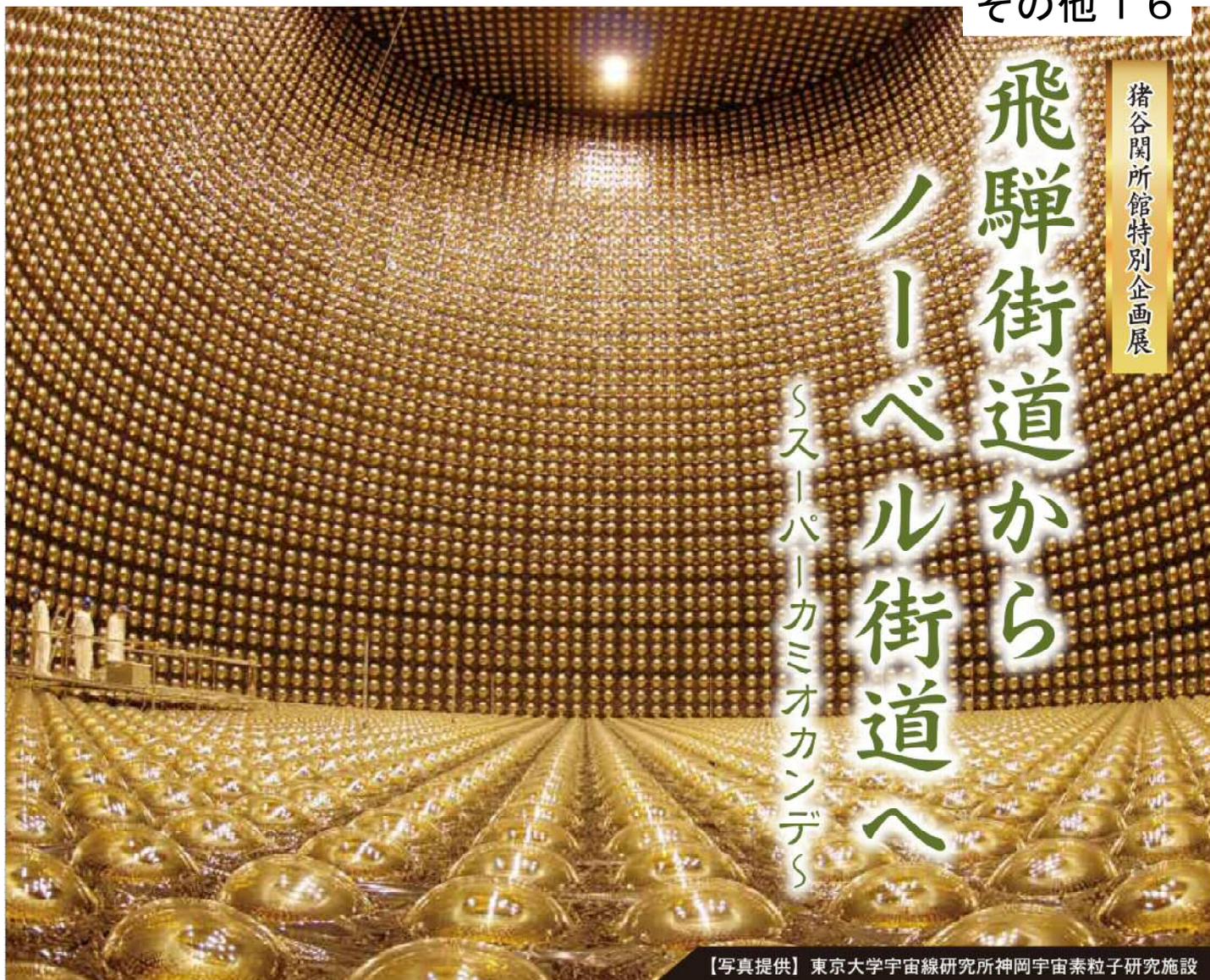
※()は、1,000人当たりの発生件数。富山市の数値は公立校分。

※富山県と全国の数値は、平成26～28年度は公立校分、平成29～令和1年度は国公立校分。

【考察】

- (1) 暴力行為が発生した学校数は、小学校45校(68.1%)、中学校20校(74.0%)であった。前年度から10校(小学校11校、中学校－1校)増加した。
- (2) 暴力行為の件数は、493件(小学校327件、中学校166件)であり、前年度から156件(小学校135件、中学校21件)増加した。小学校で急増した理由は、腹を立て相手を引っ掻いたり、悪ふざけで叩いたりするなどの怪我に至らない軽微な暴力行為も認知し、対応しているためと考えられる。
- (3) 暴力行為の内訳は、小・中学校ともに生徒間暴力が最も多く(小学校258件、中学校145件)、次いで対教師暴力(小学校39件、中学校11件)である。
- (4) 暴力行為の発生件数の増加の要因としては、発生学校数の増加があげられる。各学校においては、積極的にいじめの認知を進める中で、生徒同士のけんか等についても暴力行為の一つとして件数にあげている。
 ※暴力行為の学年別の人数については、小学校では4年生と6年生が多く、中学校では1年生が最も多い。なお、いじめの認知件数に関しても、小学校では4年生、中学校では1年生が最も多くなっている。
 (3 いじめ「いじめの認知件数の学年別、男女別内訳」参照)
- (5) 同一の児童生徒が生徒間暴力や対教師暴力を繰り返し行う事案があり、発生件数の増加要因の一つになっている。





猪谷関所館特別企画展

飛驒街道から ノーベル街道へ

スーパーカミオカンデ

【写真提供】 東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設



■ 歴史と文化講演会

定員 30名

東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設
 施設長 **中畑雅行氏**

◆ 講師 ◆

◆ 演題 ◆ 「スーパーカミオカンデで探る
素粒子と宇宙」

◆ 期日 ◆ 期日：11月7日(土)
午前10時～11月30分

◆ 会場 ◆ 猪谷関所館

〔開催期間〕 令和2年10月17日(土)～令和3年1月24日(日)

- 〔開催時間〕 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 〔休館日〕 月曜日、祝休日の翌日、12/28～1/4
- 〔入館料〕 150円、高校生以下無料
- 〔共催〕 東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設
- 〔協力〕 ひだ宇宙科学館 カミオカラボ
- 〔後援〕 北日本新聞社



主催／富山市猪谷関所館(富山県富山市猪谷978-4 TEL:076-484-1007)

令和2年度

富山市大山歴史民俗資料館 企画展

薬師見平から見た薬師岳のカール (撮影 五十嶋博文氏)

その他 17

薬師岳入門

～その歴史と自然～

期間

令和2年

10月17日(土)～12月13日(日)

■開館時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)

■入館料：大人100円 高校生以下は無料

■休館日：月曜日、祝日の翌日

関連講座

演題／「60年の山小屋人生」

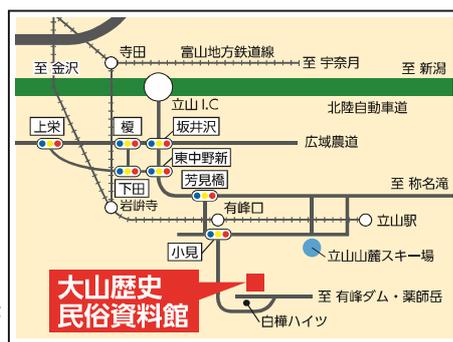
講師／五十嶋 博文氏 太郎平小屋グループオーナー
立山黒部環境保全協会 薬師岳・奥黒部支部長

日時／11月7日(土)14:00～16:00(受付13:30～)

会場／富山市大山歴史民俗資料館

申込／10月31日(土)までに電話、FAX、Eメールで、住所、氏名、電話番号を当館へ

■案内図



● 「薬師岳がある風景」写真募集 ●

薬師岳の写真を募集します。作品はミニ企画展(令和3年2月6日～3月14日)で展示いたします。
応募方法等の詳細はホームページでご確認ください。(「大山歴民」で検索)

富山市大山歴史民俗資料館

〒930-1459 富山市亀谷1番地 TEL 481-1415・FAX 481-1417

E-mail: ohyama-rekimin@city.toyama.toyama.jp

<https://www.city.toyama.toyama.jp/kyoikuiinkai/ohyamarekimin/rekimintop.html>